

大学生にとっての 日本語教育現場体験のあり方とは

湯本かほり

(国際交流基金関西国際センター)

はじめに

日本語教育現場体験

~~教育実習~~

交流



どこまで指導すべき？

次につながっている？

「楽しい」で終わっていない？

日本語教育現場体験とは

- 2009年度から開始

- 三日間 体験交流型ワークショップ

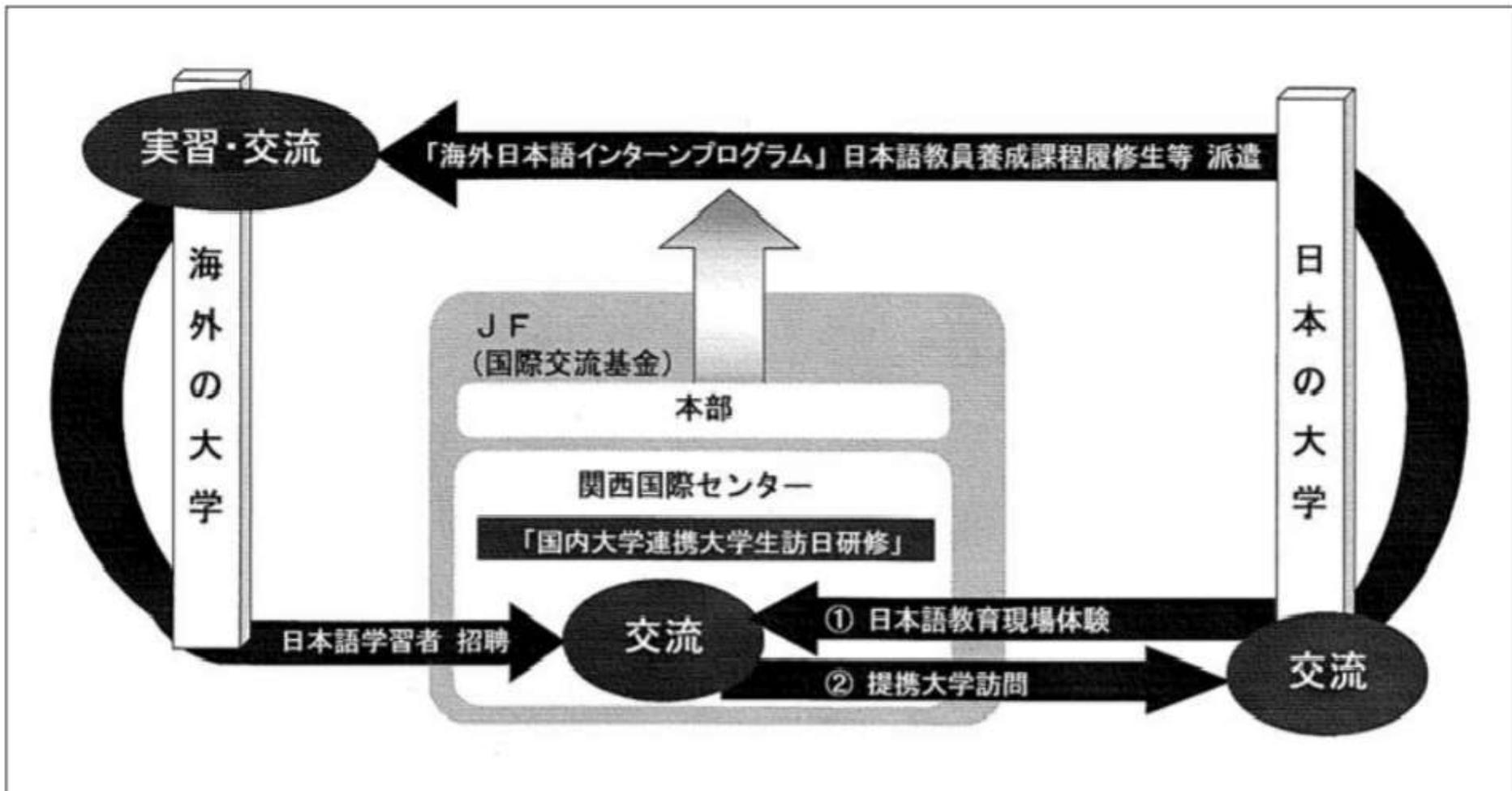
- コンセプト 「交流」

- 事業目的

- ① 連携強化

 - JF ⇄ 日本の大学、日本の大学 ⇄ 海外提携校

- ② 日本語学習者 理解促進、学習への動機付け



今井(2011)より引用

スケジュール

スピーチへのフィードバック 若者言葉or方言の授業の実施



学習者とJF関西の授業へ参加

	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)
	★お互いに知り合う!	★研修生と一緒にクラスに参加する!	★教える!
午前	<p>12:30 までに、受付でチェックインをしてください。その後部屋で休憩可。 ※ 7:00 から受付可能。</p>	<p>9:00~11:50 (Rm. 2,3,4,5,6, 1) 「スピーチ」クラスに参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生のスピーチを聞き質問する ・スピーチがどうだったか、コメントを述べ合うフィードバックセッションにも参加 <p>※日本語能力別の6クラス編成</p>	<p>9:30~10:00 授業準備、最終確認 方言・若者ことばクラス (Rm.1,3,4,6)</p> <p>①10:00~10:45 休憩 10:45~11:00 ②11:00~11:45</p>
		12:00~13:10 (センターの食堂) ランチ交流	12:00~13:10 (センターの食堂) ランチ交流
午後	<p>13:00~14:00 (Rm.1) オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者紹介 ・3日間のスケジュール、参加する日本語研修の概要についての説明 	<p>13:20~14:10 (ホール) 「アニメ・マンガの日本語」に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当センターで開発した同名のウェブサイトを活用した授業に参加 	<p>13:20~16:00 (Rm.1,5,4,6→Rm.1) ☆体験の振り返り☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業について、担当クラスごとに小グループでディスカッション ・授業の内容やコメント、3日間の体験から学んだことを参加者全員で共有
	<p>14:20~16:15 (ホール) 「インタビュー活動」に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生がグループで事前に準備したインタビューに答える。テーマは日本社会に関するもの。 	<p>14:20~15:10 (Rm.3,6) ☆体験の振り返り☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1日目、2日目の体験を通じて感じたことについて話し合う 	
		<p>15:20~17:30 (Rm.1,3,4,6) 翌日の授業準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用教室、教具等の確認 ・リハーサルなど <p>※体験参加前に基本的な準備は終わっているため、簡単な確認です。</p>	
	<p>16:30~17:00 研修生による施設案内</p>		
	<p>18:00~20:00(ホール・メインロビー) 懇親会・夕食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生＆参加者の懇親会 		
	センター泊	センター泊	

対象

■実施期間 2016年8月17～19日

■参加人数 8大学から18名

(学部3・4年生)参加

■大学生訪日研修(約6週間・16の国・地域38名)において現場体験を実施

事前アンケート

- 回答 17名
- 実習経験あり 9名、これから参加予定 8名
- 将来日本語教師を志望 10名

日本語を教えることへのイメージ

難しい

責任がある

正しい日本語を
話さなければならない

やりがい・気づき・
魅力がある



現場体験への参加動機・期待

実習経験あり

経験を積みたい

将来日本語教師を考えているので、現状を知りたい

異文化交流

実習で得たことの確認のため

授業へのアドバイスが欲しい

他大学の仲間が欲しい

実習経験なし

経験を積みたい

参加予定の実習の参考とするため

異文化交流

自分が考えた授業が学習者にどう受け止められるか知りたい

日本語教師の仕事についてもっと知りたい

学習者や他大学の参加者と刺激合い成長したい

中間ふりかえり

- 異なる大学の参加者同士が話せるようにグループ分け
- 2日間の感想を話してから、グループごとにまとめるグループワークを実施
- 学習者に対する印象が中心に語られた
→ 友好的、熱意、日本語能力の高さ

最終ふりかえり

■ 授業内容・反省点の共有 + 三日間の感想

■ 三日間の感想

① 授業をしてみたの感想

② 学習者と交流してみたの感想

③ 他大学の参加者と交流してみたの感想

↳ 同じ夢を持つ仲間と出会えた・つながりができた、
刺激になった、もっと仲を深めればよかった...

事後アンケート

■ 回答 18名

とても満足 17名 まあ満足 1名

■ 日本語を教えることへのイメージ・意識

変わった 13名

変わらなかった 5名



難しさ⇒楽しさ
技術面での気づき
学習者の多様性



実習の印象と変わらず
日本語教師になりたい
気持ちが強く

現場体験全体への感想

学習者と交流することができた

他大学の日本語教員志望の学生と交流することができた

普段できない体験ができた

他大学の授業見学や講師からのアドバイスが参考になった

自分の課題に気づけた

日本語教師の仕事がわかった

日本語教師になりたい

交流

経験

授業

日本語
教師

おわりに

■ 日本語教育現場の問題

- 国内における教師不足(学習者数 > 教師数)
- 教師の量と質の確保

▶ 日本語教育学会HP



日本語教師に
なるか迷っている

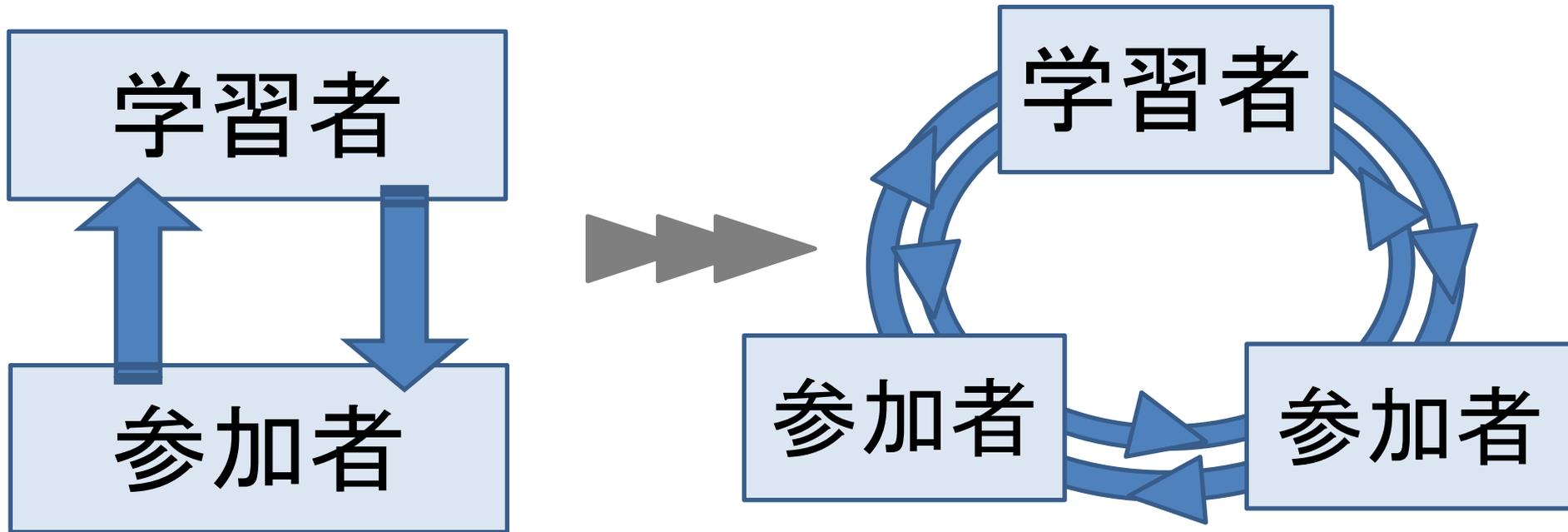


日本語教師を目指す
仲間がいない

◀ 参加者から聞かれる声

現場体験のあり方とは

■ 日本語教師ネットワーク形成基盤



プログラムデザインの見直し

→参加者同士がお互いを知り合う時間・工夫

→日本語教師の先輩である講師の経験談や
アドバイス

●教育実習とは異なる存在意義

ご清聴ありがとうございました

Kahori_Yumoto@jpf.go.jp

参考文献

(1) 今井寿枝(2011)「国内大学機関の日本語教員養成を支援する新たな試み—国内・海外連携大学間交流の一環として実施した「日本語教育現場体験」についての報告—」『国際交流基金日本語教育紀要』7: pp.171-177.

(2) 日本語教育学会HP 「日本語教育推進議員連盟の第二回総会におけるヒアリングに関して」(最終アクセス17/3/2)

<http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2016/12/nihongogiren161206.pdf>